

事例③高森町立高森中学校

熊本地震で被災した
南阿蘇鉄道復旧のための
募金・寄付活動

所在地：熊本県阿蘇郡高森町高森 1955
学校長：古庄 泰則
生徒数：144名（8学級）
校訓：「礼節」「自学」「健康」
教育目標：「郷土を愛し、認め合い、
励まし合い、高め合い、未来を拓く
生徒の育成」

熊本地震で被災し復旧の見通しが立たない「南阿蘇鉄道」の早期再開を願い、生徒会を中心に、募金・寄付活動を実施。熊本地震で大きな被害を受けた南阿蘇村に隣接する高森町。親類や友人も数多く住んでいる阿蘇地域の復興を支えるために地元の生活の足である南阿蘇鉄道への支援を決め、オリジナル缶バッジを作成し、地域イベント等で募金に協力した人にプレゼントする募金活動を実施。寄付金 78 万円を南阿蘇鉄道に届けた。

活動の流れ

(1)「ふるさとへつなげる思い広がる笑顔」をテーマに、活動を開始

生徒たちが被災地の状況を調べると、支援物資等の対応で手が離せない状況であること、生活の足である「南阿蘇鉄道」の復旧見通しが立っていないことが分かった。

(2) 缶バッジを活用した募金活動を企画

生徒から南阿蘇鉄道に寄付しようとの提案があり、同社に相談に行くと、ボランティアグループ me&you を紹介された。募金に協力した人に缶バッジをプレゼントする活動を知り、被災地の人と交流できいつまでも残しておけると考え、自分たちも行うことにした。

(3) 缶バッジのデザイン募集、作成

多くの人を巻き込むために生徒、教職員に缶バッジのデザインを募集。缶バッジを 500 個作成した。

(4) 地域のイベントでワークショップや募金活動を実施

(5) 南阿蘇鉄道へ寄付金を贈呈

チャリティーリレーマラソンの寄付金と合わせて約 78 万円を南阿蘇鉄道に寄付

活動の工夫

・年度途中からの活動だったので放課後や休日、全校集会で全校に呼びかけるなど、授業以外の時間を使った。全校生徒で活動するためにはカリキュラムの中に組み込んでいく必要があると考えている。

活動による変化：

・高森町には子どもの声を町政に反映する「子ども議会」という取り組みがあるが、こうした募金・寄付活動をやり遂げたことで、議員さんはじめ大人がより一層、子どもたちの声に耳を傾けようという雰囲気が醸成された。

教員の声：

・今回の活動を通して自分自身の視野も広がったし、缶バッジのボランティアグループに報告すると、「中学生も素晴らしい活動をしていますね」と感想をいただいた。お互い刺激を受けて、そこから新たなものが生まれる可能性を感じた。自分自身も人とのつながりを増やしていきたいと思うようになった。

実施プログラム概要

- (1) 活動期間：平成 28 年 6 月～12 月
- (2) 活動主体：生徒会及び有志の生徒 7 名
- (3) 活動時数：30 時間（課外活動）
- (4) 指導体制：教務主任および生徒会担当教諭
- (5) 寄付金額：約 78 万円
- (6) 寄付先：南阿蘇鉄道
- (7) 協力先：ボランティアグループ me & you

活動のきっかけ

・平成 28 年 4 月に起きた熊本地震で、南阿蘇村が大きな被害を受けた。高森町と隣接する地域で親族や友人・知人も数多く住んでいる地域。この親しみある地域の現状に対して何かできることはないかと考えていたところ、公益社団法人日本フィランソロピー協会主催の「チャリティーリレーマラソン」参加の機会を得た。東京で受け取った寄付金は 50 万円。さらに、地元の中学生として「復興にもっと直接的に関わり思いを伝えたい」「地域の魅力を発信していきたい」と考え高森町での募金・寄付活動をスタートした。



缶バッジのデザイン募集



イベントでの缶バッジワークショップ



募金活動



南阿蘇鉄道での寄付金贈呈式

生徒の声：

- ・募金活動に出会ったときに素通りできなくなった。
- ・寄付金贈呈の後、南阿蘇鉄道からお礼の手紙がきた。南阿蘇鉄道の人たちの熱い思いを感じた。活動の最中は自分たちの活動が役に立っている実感がなかったが、お手紙を読んだとき、自分たちの思いが伝わったと感じ嬉しかった。
- ・友だちや家族も協力してくれた。地元の人々の復興を願う思いが伝わってきた。
- ・チャリティーリレーマラソンで東京の中学生と募金活動を行ったとき、熊本のために募金をしていることを知り感謝の気持ちでいっぱいだった。
- ・高森町のローカルチャンネルでドキュメンタリーを作ってもらった。自分たちがやっていることを発信してくれて恵まれていると思った。

ふるさとへの想い 広がる笑顔 南阿蘇鉄道復興祈念缶バッジ by 高森中学校

缶バッジに込めた思い

中学校3年生
男子

僕は、今は、無くなってしまった阿蘇大橋を描きました。あの阿蘇大橋が無くなってしまったなんて、今でも信じられない気持ちで一杯です。
なぜこのデザインにしたかというと、地震から6ヶ月が経ちましたが、バッジを見て、一日も早い交通の復旧を多くの人が願っているということ、みんなに感じてほしかったからです。



缶バッジに込めた思い

中学校3年生
女子

缶バッジはキャップやかばんなどに付けることが多いと思うので、カジュアルな装いに似合うようなポップなデザインにしました。
イベントの記念としてだけでなく、日常的に使ってくださるといいなと思っています。



缶バッジに込めた思い

美術教諭

私の息子が鉄道が大好きで、高森に息子を連れてきたときは、必ず高森駅に立ち寄り、電車を見ていました。トロッコ列車を見たとき、息子と一緒にいつか乗ってみたいと思っていました。ところが・・・地震により運行の再開ができるかどうかと聞いて、とても心配していました。このまま無くなってしまわないか!? など、先の見えない不安を感じていましたが、多くの人の思いで、中松まで運転を再開したというニュースを聞いたときは、息子と一緒に喜びました。「戻ってきた!!」という喜びを「I'm back!!」という言葉に込めました。



缶バッジに込めた思い

中学校2年生
女子

熊本の伝統文化を残していくという思いで、桜を入れて古風な感じにしました。
また、桜の名所であった熊本城が熊本地震の影響で崩れてしまったので、早く元通りになってほしいという思いをこめて、このデザインにしました。



缶バッジに込めた思い

中学校3年生
女子

高森町の特産物である「肥後むらさき」というなすの認知度を上げたいと思い、「肥後むらさき」をキャラクター化してみました。
また、「肥後むらさき」はおいしいだけでなく、ふつうのナスに比べて大きいので、ふっくらとした感じになるように工夫しました。



南阿蘇鉄道ホームページ
<http://www.mt-torokko.com/>

高森町ホームページ
<http://www.town.takamori.kumamoto.jp/>

高森中学校ホームページ
<http://jh.higo.ed.jp/takamojh/>